

## 鹿児島港本港区のまちづくりに関する調査特別委員会行政調査報告から

### 【大阪市】 大阪市長居球技場（ヨドコウ桜スタジアム）の管理運営等について

#### 1. 整備の背景や経緯

大阪市長居球技場（ヨドコウ桜スタジアム）は、昭和62年、野球場以外で、日本で初めての人工芝の大規模球技場として完成した。

セレッソ大阪の所有者である民間事業者が、施設整備費の寄附を募る募金団体を設立し、令和元年から3年まで当該団体が主体となり既存施設を増改築した。

改修後、3年4月に改修部分を大阪市の寄附し、一般社団法人セレッソ大阪スポーツクラブが指定管理者となり、33年度まで30年にわたり施設を管理・運営することとなっている。

##### (1) 改修の経緯

[平成22年の状況]



[平成26年の状況]



平成22年は、ホームサポーター席を新設。また、この時点では、写真下側がバックスタンド（ひな壇型のコンクリートの階段席）となっている。

平成26年には、ホームサポーター席を増設したほか、アウェイサポーター席に座席を設置。

令和3年の改修により、従来のバックスタンドを撤去し、メインスタンド（2階と4階の2層式）を新設するとともに、従来のメインスタンドをバックスタンドとしたほか、ホームサポーター席に屋根を設置し、ホーム・アウェイサポーター席ともに増設。

座席数は、平成22年と令和3年を比較すると、約15,000席から約24,500席に増加した。

[令和3年の状況]



(出典：ヨドコウ桜スタジアム資料)

## 2. 施設の概要や特徴

### (1) 施設の概要

大阪市長居球技場（ヨドコウ桜スタジアム）は、JR阪和線「鶴ヶ丘駅」から徒歩2分、地下鉄御堂筋線「長居駅」から徒歩7分で、長居公園内にある。

Jリーグ「セレッソ大阪」のホームスタジアムとなっており、1年を通してサッカーやアメリカンフットボール、ラグビーなどの試合が行われ、多くの観客でにぎわっている。

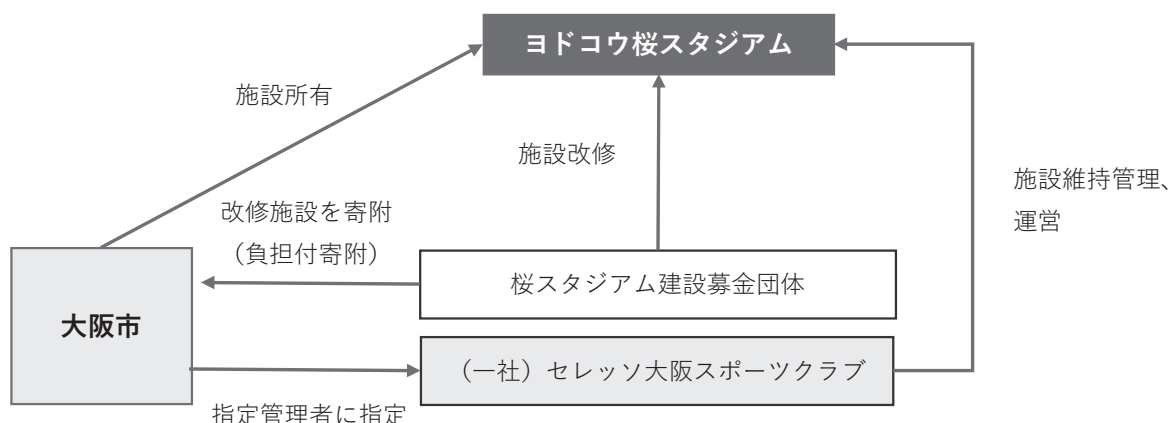


(出典：ヨドコウ桜スタジアムパンフレット)

- ① 敷地面積：約657,000㎡（長居公園全体）、延床面積：約31,166㎡  
※天然芝部分：117m×76.1m／人工芝部分：73m×16.5m
- ② 階 層：地上5階
- ③ 構 造：鉄筋コンクリート造
- ④ 所 有 者：大阪市（土地、建物）
- ⑤ 改修期間：平成31年3月～令和3年4月（2年1カ月）
- ⑥ 事業主体：桜スタジアム建設募金団体、一般社団法人セレッソ大阪スポーツクラブ
- ⑦ 改 修 費：非公表
- ⑧ 座 席 数：24,525席

スタンド	座席数
メインスタンド	6,678席
バックスタンド	10,923席
ホームゴール裏スタンド（北側）	3,984席
アウェイゴール裏スタンド（南側）	2,832席
記者席	108席
合計	24,525席

### ⑨ 改修のスキーム図



(2) 施設の特徴

① 地域の“にぎわい拠点”

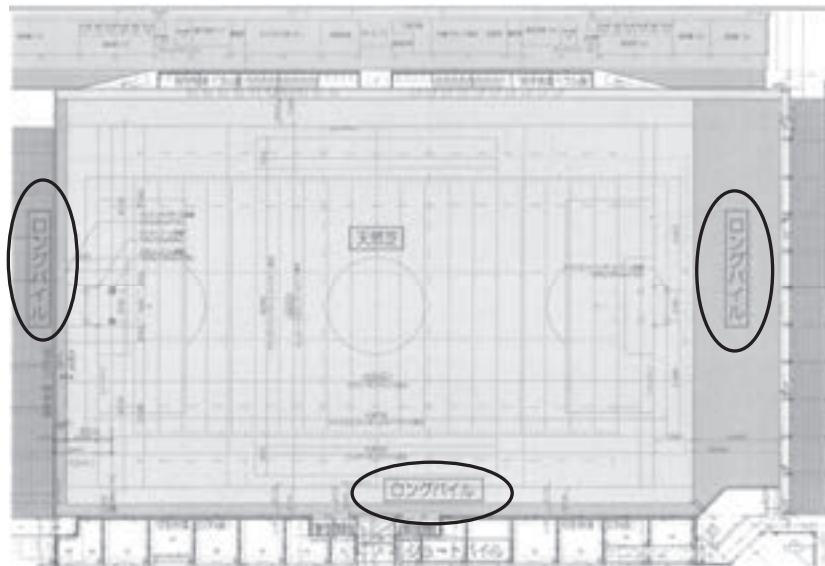
大阪市長居球技場（ヨドコウ桜スタジアム）は、「働く」、「学ぶ」、「運動する」、「楽しむ」を実現できる場所となっており、コワーキングスペース、「桜カレッジ（各種カルチャー教室）」、各種スクール、イベントなどを通じて様々な人々が集う“にぎわい拠点”となっている。

② 臨場感あふれる球技専用スタジアム

競技者と観客に一体感が生まれる臨場感あふれるスタジアムで、美しい天然芝のフィールドが印象的となっている。客席からはグラウンドが非常に近く、最前列からサッカーのタッチラインまで約5.5mとなっている。

③ 人工芝（ロングパイル）エリアの活用によるイベントの展開

人工芝エリアを設け、そのエリアを活用したサッカースクールやヨガ教室などを開催し、施設の利用促進を図っている。



(出典：ヨドコウ桜スタジアム資料)

④ 体育館（バックスタンド側）の利用による稼働率向上

体育館については、改修前から現在のバックスタンド側にあるが、ほぼ毎日利用され、施設全体の稼働率向上につながっている。



(出典：ヨドコウ桜スタジアムパンフレット)

### 3. 管理運営の状況や特徴（主に令和3年度の状況）

#### (1) 施設の運営状況

- ① 開館時間：午前9時から午後9時
- ② 休館日：月曜日（休日に当たるときはその翌日）及び12月28日から翌年1月4日まで
- ③ 臨時開館：定期的な自主事業（サッカースクール、コワーキングスペース営業）

#### (2) 運営体制など

総括責任者のほか、施設運営部7人、営業・広報部3人で運営を行っており、職員に対しては、個人情報保護への取り組みなど様々な研修を実施している。

#### (3) 来場手段

- ・来場手段については、御堂筋線、JRの利用が多い。
- ・駐車場は、長居公園全体で3カ所（約600台）ある。そのうち、試合がある日は、主催者側が約50台確保している。試合の日にかかわらず、特に土日は長居公園全体の一般利用者ですぐ満車になる傾向がある。
- ・自転車も多く、試合の日は臨時置場をつくっている。
- ・パークアンドライドは行っていない。

※以上の点から公共交通機関の利用を勧めている。

#### (4) 施設修繕等の対応状況

- ① 大規模修繕：大阪市
- ② 小規模修繕：指定管理者（一般社団法人セレッソ大阪スポーツクラブ）

※指定管理者は、大阪市から指定管理料は受領しておらず、主にスポーツ利用収入と広告収入により、修繕費を含め、施設全体の管理運営費を賄っている。

### 4. 多目的な利用状況

#### (1) 主な利用状況

##### ① グラウンド（天然芝部分）

- ・サッカーやアメリカンフットボール、ラグビーなど年間約50試合を行っている。

※芝の管理のため、年間約50試合の利用が限度となっている。

○3年度：33試合，14万人

（J1リーグ・セレッソ大阪ホームゲームほか）

○4年度：53試合，35万人

（J1リーグ・セレッソ大阪ホームゲーム，ラグビー国際試合，リーグワンほか）



（出典：ヨドコウ桜スタジアムHP）

② 会議室及び人工芝（ロングパイル）エリア

桜カレッジ（各種カルチャー教室），各種スクール，イベントなどに会議室等を貸し出し，多くの方が利用している。



（出典：ヨドコウ桜スタジアムパンフレット）

③ 体育館

毎日100～200人単位の利用があり，年間延べ約6万人が利用している。

④ コワーキングスペース

メインスタンドの3階に位置するコワーキングスペースは，試合開催日はビジネスラウンジとして使用される広々とした空間で，落ち着いて仕事に集中してもらえるほか，併設するVIPルームも会議室として利用可能で，会議や商談にも活用されている。



（出典：ヨドコウ桜スタジアムパンフレット）

⑤ VIPルーム（VVIP・VIP計14室，専用ラウンジ別途あり）

バルコニー席を完備した特別な空間で，飲食や観戦が楽しめる。



（出典：ヨドコウ桜スタジアムHP）

(2) 活用事例

① 大規模イベント等

セレモニーやイベント会場として、企業入社式や大学入学式、東住吉区成人式、新車発表イベントなどの大規模イベントや講演会に活用されている。



(出典：ヨドコウ桜スタジアム資料)

② フォトウエディング

同スタジアムの様々なスポットで撮影できる  
フォトウエディングを行っている。



(出典：ヨドコウ桜スタジアムパンフレット)

③ 桜カレッジ (各種カルチャー教室)

「地域のためのスタジアム」をコンセプトに、多機能型スタジアムの特色を生かし、定年後世代の生活のゆとりなど社会生活を取り巻く環境変化に対応した生涯学習の場及び近隣地域の子どもたちへの教養講座の場を同スタジアム内に設け、地域社会へ貢献するとともに、施設の有効活用を図ることを目的として「桜カレッジ」を開講している (平日のみ)。

○主な講座

個別指導塾、ロボットプログラミング教室、そろばん教室、子ども向け英会話、大人向け英会話&韓国語講座、習字教室、かきかた教室



(出典：ヨドコウ桜スタジアムパンフレット)

④ 教室事業

会議室及び人工芝（ロングパイル）エリアを活用し、サッカースクールやヨガ教室、ダンススクールなどを実施している。



(出典：ヨドコウ桜スタジアム資料)

⑤ スタジアムキャンプ及び新スポーツ体験

人工芝（ロングパイル）エリアを活用し、指定管理者の自主事業として、スタジアムキャンプ及び新スポーツ体験を実施している。



(出典：ヨドコウ桜スタジアム資料)

⑥ スタジアムツアー

「大阪のみんなで、大阪のみらいに、世界に誇れる、世界がうらやむ、スタジアムを贈ろう」を掲げ、誰もが気軽に楽しみ、スポーツ活動を通じた地域コミュニケーションづくりの活性化を目指し改修された同スタジアムを、多くの方にその魅力を体感してもらうため、団体（30名以上）を対象とした「スタジアムツアー」を開催している。

⑦ レストラン

同スタジアムの3Fラウンジを活用し、立食または着席のビュッフェスタイルによるパーティープランがある。

※テラス席での飲食も可。

※30～120名まで対応可。

## 5. 今後の展開

追加設備の整備（暗渠排水管など）を行っていくとともに、人工芝（ロングパイル）エリアの活用促進のほか、スポーツ以外のイベント誘致や隣接する「ヤンマースタジアム長居」との連携（場所の提供：記者会見や体育館の貸し出しなど）に取り組むなど、施設全体における稼働率の向上に努め、収益の確保などを図っていく。

## 【豊田市】 豊田市豊田スタジアムの管理運営等について

### 1. 整備の背景や経緯

豊田スタジアムは、2002サッカーワールドカップ（平成14年）の開催が決定した平成8年、総合計画に位置づけられた新中央公園内に、豊田市の市制50周年記念事業として平成9年に着工し、平成13年7月にオープンした。

名古屋市の競技場が手狭なことから、当初から名古屋グランパスのWホームスタジアムと位置づけられ、現在は、ラグビートヨタヴェルブリッツのホストスタジアムでもあり、サッカー、ラグビーの日本代表戦や大規模コンサート、各種イベント会場として利用されている。

当初は、国内最大級を想定して6万5千人規模の計画であったが、2002サッカーワールドカップが日韓共催となり、国内選考に漏れたために、4万5千人規模に縮小された経緯がある。

### 2. 施設の概要や特徴

#### (1) 施設の概要

豊田スタジアムは、豊田市駅から徒歩約20分で、矢作川沿いの緑豊かな豊田中央公園に「豊田市のランドマーク」として位置し、今では年間約150万人から180万人が訪れる豊田市を代表する「シンボル施設」であり、当地域有数の「集客施設」となっている。



- ① 使用形態：サッカー等球技専用スタジアム（埼玉スタジアムに次ぐ国内第2位の規模）
- ② 面積：中央公園 170,000㎡  
           建築面積 40,734㎡  
           延床面積 97,004㎡
- ③ 階層：地下2階，地上4階
- ④ 構造：鉄筋鉄骨コンクリート造／鉄骨造
- ⑤ 収容人数：メインスタンド 12,045席  
           バックスタンド 14,632席  
           サイドスタンド 17,703席  
           計 44,380席  
           （うちメディア席264席，車椅子席228席，可動席2,438席）
- ⑥ ピッチ：天然芝部分 115m×78m
- ⑦ 高さ：マストまで96m（ピッチから），屋根まで61m（ピッチから）



- ⑧ 照 度：水平面照度 3,500ルクス（F I F A C l a s s V照度基準達成）
- ⑨ 駐 車 場：地下2階 88台，地下1階 116台，地上南 342台，地上東 129台
- ⑩ 設 計 者：株式会社黒川紀章建築都市設計事務所
- ⑪ 建設期間：平成9年9月～13年6月（約3年9カ月）
- ⑫ 建設費：451億円（土地購入費，公園整備費含む）

【建設費】

（単位：千円）

項 目	金 額
用地取得費	8,820,000
工事費	34,090,000
委託費	796,000
備品費	1,128,000
その他	128,000
合計	44,962,000

【財源】

（単位：千円）

国庫補助金（都市・地域整備局所管補助事業）	3,215,000 （うち用地1,025,000，建設2,190,000）
一般財源	22,049,600
基金	13,000,000
市債	6,697,400
合計	44,962,000

(2) 施設の特徴

① 吊り屋根構造

3方向の大型屋根を96mの4本のマストで支える「つり屋根構造」により，柱も壁もなく，どの席からもピッチ全体が見渡せる。



吊り屋根構造  
（出典：豊田スタジアムHP）

② 劇場型のスタジアム

観客席最前列からピッチまで最短で7mで，急傾斜（最大傾斜角は38度）の上層部客席からもプレーを間近に見られ，観客の声援と選手のプレーが創り出す臨場感は欧州のトップ級スタジアムにも負けない，劇場型のスタジアムとなっている。



スタンド  
（出典：豊田スタジアムHP）

③ 独自の祝祭空間の創出

駅前から矢作川を越えてスタジアムに通じる個性的なデザインの豊田大橋は，スタジアムと同じ黒川紀章氏の建築であり，矢作川河川敷が広がるロケーションの中でスタジアムの造形と調和し，独自の祝祭空間を創り出している。

④ 可動式屋根

大きな特徴であった可動式屋根は，当初，アリーナ機能を併せ持たせるために開閉式であっ

たが、運用コスト等の評価を踏まえ、20年経過した令和3年度に固定屋根となっている。

⑤ 天然芝のフィールド

アスリートが最高のパフォーマンスを発揮できるよう天然芝を採用し、水はけに優れた特殊な多層構造、スプリンクラー、温水パイプを用いたアンダーヒーティングシステムを導入している。スタジアムの主役である天然芝のピッチは過去3年連続でベストピッチ賞を受賞している。



天然芝のフィールド  
(出典：豊田スタジアムHP)

### 3. 管理運営の状況や特徴（令和4年7月1日時点）

(1) 管理団体名：株式会社豊田スタジアム

（指定管理者として中央公園（豊田スタジアム等）を運営）

(2) 設立年月日：平成12年9月25日

(3) 設立目的

- ・当施設の機能を最大限活用し、スポーツ・文化を通じた市民の交流拠点として、夢と感動を提供できるよう事業運営を行う。
- ・株式会社として民間活力を十分に活用し、知的観光拠点となるようまちづくりへの貢献を図る。

(4) 主な事業内容

民間会社であるため「販売」、「コンサルティング」といった市直営では実施困難な事業も実施可能となっている。

- ・都市公園施設及びスポーツ施設の管理運営
- ・貸館営業
- ・イベントの企画、開催、チケット販売及びコンサルティング
- ・食品、飲食、グッズの販売
- ・酒類の販売
- ・飲料及び土産店の経営並びにテナントの誘致及び管理業
- ・スタジアム内の広告
- ・特別観覧室の経営
- ・映像及び音声ソフトの製作、販売及び配給
- ・出版物の企画、発行及び販売
- ・損害保険代理業
- ・芝の販売及びコンサルティング
- ・上記に付帯する一切の事業

(5) 資本金：1億円

豊田市が34%、トヨタ自動車12%のほか、トヨタグループと地元金融機関等の出資があり、社外役員にも参画している。

(6) 職員の状況

役員以下、正社員16人、臨時職員2人の18人で、施設保全、警備、清掃、プール監視、レストラン等の再委託業者企業とともに施設を管理運営している。

(7) 財務の状況

損益計算書によると、3年度決算は、市からの指定管理料を含む総収入が約10億4,800万円、経常利益が約7,100万円、純利益が5,400万円となっている。

施設運営費としての市からの指定管理料は、委託料等収入が約6億4,700万円で、内訳は公園管理、設備保全、警備、清掃、プールの施設管理委託経費が約2億6千万円、芝育成管理費が約1億5千万円で、これらの再委託料が約4億3千万円のほか、年間光熱費が約1億4千万円、修繕費が約3千万円、当社管理担当社員の人件費と管理諸費が約6.5千万円となっている。

一方、指定管理料を除く約4億円の収入は、客席から見える約140社の広告看板、LED看板の広告料収入を基幹収入として、各企業と年間契約を締結している28室のスーパールーム（特別観覧室）の貸付料、レストラン・売店の売上げ、手数料収入等となっている。

【財務の状況】

(単位：千円、四捨五入)


貸借対照表			損益計算書		
年度	2年度決算	3年度決算	年度	2年度決算	3年度決算
総資産	770,455	875,295	総収益（収入）	942,247	1,048,433
負債	301,939	354,480	営業損益	63,385	70,840
うち有利子負債	0	0	経常損益	65,764	71,383
資本	468,517	522,517	税引前当期損益	65,764	79,440
利益剰余金	368,517	422,517	当期純利益	64,157	54,001

【豊田市の財政的関与の状況（令和3年度決算）】

(単位：千円、四捨五入)

市補助金収入	0	損失補償契約に係る債務残高	0
市負担金収入	2,182	市貸付金残高	0
市委託料等収入	647,983	市支出運用財産（基金）	0

【豊田市関係事業の状況（令和3年度）】

市施設の管理 (指定管理者・その他)	【指定管理施設】 豊田中央公園（豊田スタジアム、スポーツプラザ、芝生広場等）
市負担事業（共催事業）	花いっぱい事業 ※スタジアム周辺の景観美化を目的とした土地所有者との共同事業で、約32,500㎡の広大な土地でコスモスの花を咲かせている。 

4. 多目的な利用状況

(1) 施設の利用件数及び利用人数

① 全体

令和4年度：430件、約150万人（コロナ禍の入場制限が一部継続）

※元年度：652件、約178万人

② スポーツイベント及び関連教室（4年度）：146件，51.7万人

○主な内容

- ・サッカーJリーグ：18試合，34.3万人
- ・ラグビーリーグワン：3試合，3.6万人
- ・サッカー国際試合：2大会，7試合，3.8万人
- ・ラグビー国際試合：1試合，2.5万人
- ・世界ラリー選手権：5.9万人
- ・そのほか，市民マラソン大会や企業運動会の会場としても利用されている。

※Jリーグは，コロナ禍の入場制限によって，コロナ禍前は，平均入場者数約3.5万人であったものが，1万人以下に減少したものの，5年3月以降の制限撤廃により，ようやく平均2万人台に戻ってきた。また，元年には，ラグビーワールドカップ日本大会の会場として，日本代表対サモア代表をはじめ3試合が開催された。

③ 産業・文化・市民イベント（4年度）：47件，約17万人

○主な内容

- ・とよた産業フェスタ：9.1万人  
産業PRストリートや公共事業PRなどにより市民の意識高揚につながったほか，ランチマーケットや地元特産品コーナーは食を楽しむ市民でにぎわった。
- ・市や団体，企画会社が主催するイベントや地域の夏祭り，フリーマーケット，陶器市など，多様な催しが年間通じて行われている。



とよた産業フェスタ  
(出典：豊田スタジアム事業報告書)

※コロナ禍前は，年1，2回の芝張り替え時期にタイミングを合わせ，スタジアムツアーを誘致し，アーティストの大規模コンサートが開催されていた。

(2) 多目的に利用できる主な施設内容

① スーパールーム（28室）

メインスタンド2階にあるバルコニー席を完備した屋内・外ともに楽しめる空調付きの特別な空間で，飲食や観戦が楽しめる。

※企業に年間契約で貸し出し（国内では例がない）

② スポーツプラザ（プール）及び売店

25mプールや流水，スライダーを備えた屋内温水プールで，売店では軽食やグッズを販売している。

③ レストラン（100席）

高さ約30mから矢作川越しに市街地を一望できる唯一のレストランで，ランチ，カフェタイムの通常営業のほか，夜間の宴会・パーティーの利用，ケータリングの基地となっている。



スーパールーム  
(出典：豊田スタジアムHP)



プール・売店  
(出典：豊田スタジアム事業報告書)



レストラン  
(出典：豊田スタジアム事業報告書)

④ 会議室（15室）及びラウンジ（2室）

イベント運営のほか、通常時は企業及び団体の研修や会議、説明会などに貸し出している。

⑤ コンコース

ゲートから観客席までの通路スペース（メイン約1,100㎡、バック約1,300㎡、両サイド約880㎡）で、各種イベントスペースのほか、フリーマーケットや陸上教室、実証実験スペースなど、多様な利用がある。

⑥ イベント広場

西イベント広場や東イベント広場において、フリーマーケットやパフォーマンススペースなど、多様な利用がある。



(出典：豊田スタジアム事業報告書)



コンコース  
(出典：豊田スタジアムHP)



西イベント広場（約3,150㎡）  
(出典：豊田スタジアムHP)



東イベント広場（約2,400㎡）  
(出典：豊田スタジアムHP)



多目的広場（約5,000㎡）  
(出典：豊田スタジアムHP)

⑦ スタジアムギャラリー

メインコンコースにある展示スペースで、名古屋グランパスの歴史や、選手が試合で使用したユニフォームなどの貴重な資料が展示されている。

⑧ ウォームアップルーム

ゲームに臨む選手が、心身ともに最良のコンディションを整えられるウォームアップ専用の空間で、グリーンを基調としたシンプルなしつらえが特徴となっている。

なお、同ルームでは、成人の健康づくり教室として、落ち着いた照明と空間でエアロビクスやヨガなどのフィットネスプログラムを実施している。



ウォーミングアップルーム  
(出典：豊田スタジアムHP)



(出典：豊田スタジアム事業報告書)

⑨ 外構芝生広場

公園利用のほか、キッズスポーツ教室、その他利用としても年間92万人が訪れている。

⑩ スタジアム見学

小学校の社会科見学をはじめ、ボランティアスタッフによるスタジアム見学の受け入れを行っており、普段は入ることができないロッカールームなどを回り、ここでしか聞けないエピソードなどを聞くことができる。



(出典：豊田スタジアム事業報告書)



(出典：豊田スタジアム事業報告書)

## 5. 豊田スタジアムの芝生管理

大きな屋根を持つ豊田スタジアムは日照時間が短いことから、芝がなかなか根付かず、竣工以来、芝の育成に苦労を重ねてきた。そこで、平成17年からは芝育成用の圃場を他に求め、市内2カ所の圃場のほか、九州や東北から季節に合わせて芝をロール状にしてトラックで搬送し張り替える「全面張り替え方式」を採用している。

## 6. スタジアム設置後の効果（経済波及効果、地域の活性化、観光資源としての効果等）

(1) 大規模スポーツイベント開催に伴う経済波及効果について

① ラグビーワールドカップ2019<sup>TM</sup>（RWC2019）

② 定期測定

- ・経済波及効果を外部委託により毎年度イベントを選定して測定
- ・元年度から3年度はJリーグ公式戦、4年度はサッカー日本代表戦で測定

対象		カード	観客数	経済波及効果
①	RWC2019	3試合	111,689	約73億2,800万円
② 定期	元年度	名古屋 - G大阪	42,975	約3億9,000万円
	2年度	名古屋 - 広島	16,825	約1億2,400万円
	3年度	名古屋 - 神戸	19,257	約1億3,000万円
	4年度	日本代表 - 韓国代表	14,117	約1億1,000万円

※RWC2019には施設整備費やファンゾーン（10日間延べ60,432人）の売上げ等も含む。

(2) 大規模イベントの誘致・開催実績について

① 豊田スタジアム・スカイホール豊田の過去4年間の実績

全国レベルの各競技のプロ・社会人リーグ，県外からの来場者を想定したイベント等の合計

単位：来場者数（人），カッコ内は件数

年度	豊田スタジアム	スカイホール豊田	計
元年度	594,696 (19)	67,035 (16)	661,731 (35)
2年度	137,653 (17)	12,632 (9)	150,285 (26)
3年度	313,633 (34)	24,822 (14)	338,455 (48)
4年度	417,322 (26)	89,045 (28)	506,367 (54)
計	1,463,304 (96)	194,534 (67)	1,657,838 (163)

(3) 地域の活性化に関する取り組みについて

- ・ホテル旅館組合や旅行事業者と連携した「スポーツイベント応援宿泊パック」の実施支援
- ・中心市街地飲食店等との連携事業の実施（例：観戦割引，優待）
- ・大規模スポーツイベント実施予定者に対する宿泊・飲食のあっせん実施

(4) 観光資源としての効果（4年度豊田市観光マーケティング調査（2,000人）より）

- ・豊田スタジアムへの訪問経験があると答えた人の割合：約3割（2回以上は約2割）
- ・豊田スタジアムへの訪問意向（また行きたい，行ってみたい）：約5割
- ・他の市内観光地に比べ，遠方（東京，大阪）からの訪問客の割合が高い
- ・豊田市の観光イメージとして「スポーツ観戦」と答えた人の割合：約5割

## 7. 今後の展開

令和6年9月にはアジア競技大会の愛知・名古屋での開催が決定している。当スタジアムはサッカーのメイン会場になる予定で，当中央公園も現在の17haから40ha規模に拡大する計画が進められており，隣接する圃場に人工芝2面のサッカー場もPFI方式で整備される予定である。